

講義名	経済学入門【商学部】		
担当教員	辻 美代		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 4時限	授業形態	講義

履修開始年次	1年生	単位数	2	備考	
--------	-----	-----	---	----	--

**主題と概要**

私たちは新聞やテレビで毎日多くの経済問題に触れています。現在、国境を超えてモノ・ヒト・カネ・情報が行き交い、経済活動はグローバルに展開しており、これら問題を理解するためには経済学の知識が必要です。この講義では、経済の仕組みについて、基礎を学びます。また、日本の経済発展を振り返りながら、現在の問題を考えます。さらに、世界経済を拡大してきた、自由貿易やグローバル化についても考えます。

**到達目標**

経済学を初めて学ぶ者が経済学の考え方や概念を学ぶことによって、経済社会問題を理解するために必要な基礎知識が取得できるようにする。  
ヒト・モノ・カネ・情報に国境がない現在、世界情勢に目を向ける姿勢を身につけることで、様々な事柄に対し、自分で考えることができるようになる。

**提出課題**

レポート課題(小テストを含む)を課します。課題は、授業の復習や配布資料のまとめ、また、次回授業の予習などを予定しており、適宜授業中に指示します。

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック**

レポート課題や小テストは、次回授業で模範解答を提示し、解説します。

**評価の基準**

平常点、中間レポート、期末試験を総合して評価します。

- ・平常点(小テスト・レポート課題)・・・30点
- ・中間レポート・・・20点
- ・定期試験・・・60点

**履修にあたっての注意・助言他**

普段から新聞やニュースなどで日本や世界の経済活動に関心を持ってください。毎日ニュースをフォローしてください。新聞、テレビ、ラジオ、携帯などニュース媒体は問いません。真面目に受講すること、授業中の私語、遅刻・途中退室などの妨害行為、迷惑行為は厳禁です。

教科書	.使用しない。			

**プリント資料及び参考文献**

授業中に資料を提示します  
主な参考文献  
・ 伊倉 淳・中村保雄『1からの経済学』碩学会、2010年  
・ 小塩 隆士『高校生のための経済学入門』ちくま新書、2002年  
・ 若田 規久男『経済学を学ぶ』(ちくま新書、1994年)  
・ 若田 規久男『日本経済を学ぶ』ちくま新書、2005年

**授業計画**

1. 「経済」とは
2. 取引、市場、政府
3. 需要と供給 需要
4. 需要と供給 供給
5. 需要と供給 均衡
6. 市場の失敗と政府の役割
7. 市場の失敗と政府の役割
8. 国内総生産
9. 国内総生産
10. 戦後日本経済の発展
11. 戦後日本経済の発展
12. 冷戦終了後の世界経済
13. 冷戦終了後の世界経済
14. グローバル化とその問題点
15. まとめと復習

\*進捗状況に応じて変更します。  
\*新型コロナウイルス感染症の状況によりシラバスを修正します。

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

ア:PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/>	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート		エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション		カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)		

**準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

予習:毎日、ニュースをフォローする・・・約1時間(1日10分)  
復習:授業中に提示した資料(新聞記事など)を見直し、関連資料を探し、纏める・・・約1時間  
課題:与えられた課題を図書館やインターネットで調べ纏める・・・約2時間

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

地域社会の諸問題に関心を持ち、経済学の知識を用いて理解することは、「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」育成への基礎条件となる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

**備考**

\*新型コロナウイルス感染症の状況によりシラバス修正があります。